

居合道 だより

第160号





はじめて

はじめて

先月は出雲大社に全国の神々が集まり諸国には神がいなくなるという神無月。そのせいでもなかろうが全国各地に大型台風が頻繁に上陸して甚大な被害をもたらした。特に関東、東北地方を襲った度重なる超大型台風による被災に対してはお見舞いの言葉さえ見つからない。

今回は主に浸水による被害が大きかった。河川の氾濫に対しては過去の多くの経験やハザードマップ等を参考にして、高い土手を築いたり避難場所指定等の対策もしていただろうが、想定外の記録的豪雨では役に立たなかった。堤防を越え、車も家も人までも飲み込んでいく濁流の脅威は「神はいないのか」と思わせる惨状だった。

地球規模の異常気象は、間違いなく今までの人類の、神をも恐れぬ無謀で自分勝手な営みの影響に他ならない。

一方で10月はラグビーワールドカップ開催で日本中が盛り上がった。

桜戦士と呼ばれる日本代表のチームは、日本人だけではなく肌の色も国籍も違う

人たちの集まりだったが、多様化、国際化に対応しつつある現在ではさほどの違和感もなく、十分にジャパンワンチームとしての役目を果たしてくれた。そればかりか悲願のベスト8の高い壁までも乗り越えて、被災地の人たちの励みにもなってくれたと思っている。

ラグビーの盛んな釜石の復興スタジアムで開催予定だったカナダ対ナミビア戦が台風19号の影響で中止になったとき、カナダチームが被災地の泥かき等のボランティア活動を行い「試合が出来ずに失望したが、後片付けの手伝いができ、逆に被災地の人たちに勇気づけられた」と語っていた。まだまだ人間捨てたもんじゃない。

台風やラグビーの話題で薄れがちだったが、また一人、日本人が偉業を成し遂げ、その名を世界に知らしめた。

スマホやパソコン等、今や日常に欠かせないリチウムイオン電池の開発でノーベル化学賞を受賞した吉野彰さんだ。

大学の研究室という守られた場所ではなく産業人の吉野さんは、常にビジネスとしてシビアな結果を求められてきた。

その中で15年の長きにわたり、本人曰く、基礎研究（悪魔の川）から商品開発（死の谷）そして商品が売れるまで（ダーウィンの海）と地獄の苦しみを味わってきたそうである。

受賞後のインタビューで「これからは単に技術開発だけではなくて、環境問題に直結する研究を課題にしていく。」と力強く話していた。

彼はこうも言っている。「壁にぶち当たったらありがたく思え。壁にぶち当たって乗り越えたら新しいことが生まれる。」と。

今できること今しかできないことを今やろう。今すぐには表に出てこなくとも。

主な活動

10月19日(土) 第54回全日本居合道大会 全剣連 高知

10月27日(日) 地域稽古会(水巻町)

十一・十二月の予定

11月 3日(日) 地域稽古会(飯塚)

11月 9日(土) 剣道・居合道・杖道「教士」称号筆記試験 全剣連
ホテルサンライン福岡

24日(日) 居合道部稽古会・級審査会 居合道部 福岡武道館

30日(土) 居合道6・7段審査会 全剣連 東京都

その他

[第22回全国居合道七段選手権大会実施要項・第46回北九州居合道大会実施要項はこちら>受付開始しました](#)

第54回全日本居合道大会 観戦記

令和元年10月19日(土)、台風の影響で、秋雨前線が激しい四国は高知県立県民体育館において、標記大会が実施された。

我が福岡県代表は、國方孝之監督をはじめ、和泉修二選手(七段の部)・井手烈太郎選手(六段の部)・佐伯伊勢雄選手(五段の部)の三名が出場した。上國料審判長による指定技は2本目(後)・7本目(三方切り)・9本目(添手突き)の発表があり、試合が開始された。

五段の部、佐伯選手は、1回戦 硬くなった昨年と違い 緊張の中伸びやかな居

合 で 石川県の二木選手と対戦 2-1 で念願の初勝利を得た。 2回戦さらに伸び伸びとした居合で勝負をかけたが、埼玉県の小山選手に 1-2 で惜敗した。

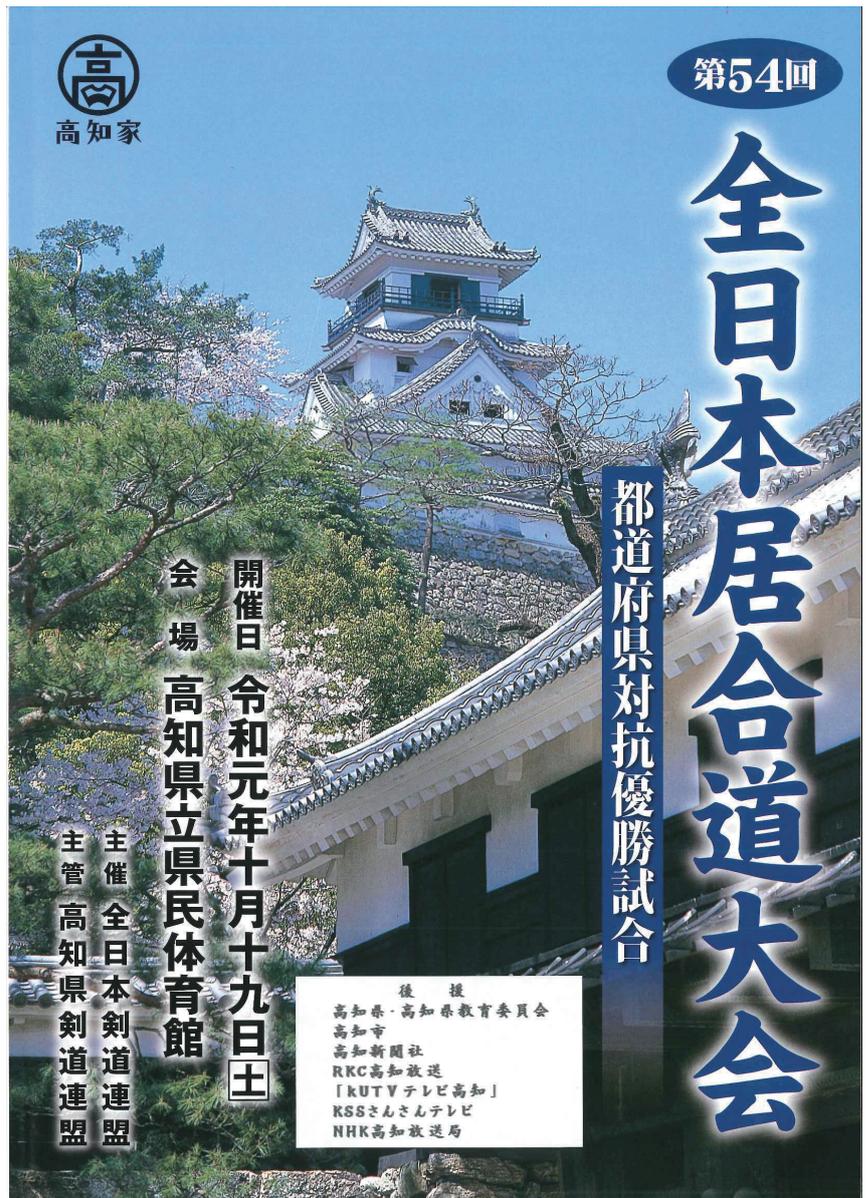
六段の部、井手選手は、落ち着いた居合で 初戦から3回戦まで勝ち上がり 4回戦で千葉県の池沢選手と対戦した。勢いのある居合で勝負したが、0-3 で敗れた。

七段の部、和泉選手は、初戦は完勝 2回戦、今年3月の北九州大会優勝者香川県の横井選手と対戦し、切れ味鋭い居合で勝負したが、0-3 で敗れた。

大会の結果は、団体の部で、第一位高知県、第二位新潟県、第三位東京都が入り、福岡県は 15位であった。また、六段の部で個人一位になった 東京都 圓口 雄平 選手は、福岡県出身者です。

大会前、國方監督は「強化稽古で学んだことを、試合で吐き出せ、結果は後からついてくる。」と檄を飛ばし、選手達を鼓舞した。大会終了後、選手達の悔しげな中に、爽やかな表情が印象的であった。

野田 尚徳 記



編集後記

我が福岡県では、各地域持ち回りで地域稽古会を開催している。

これが、なかなか内容の濃い稽古会で、帰ることには結構フラフラになりながら稽古を終えるのですが、若者はその後にまだ残って稽古するという念の入れよう。

この稽古会、受審前には本当に心の支えになるのです。悪いところをどんどん指摘していただけて、とてもありがたい。各講師の先生からもいつもと違った角度から指摘していただけるので、自分自身の「気づき」のきっかけになるのです。ちょっとした「気づき」からヒントを得て、できた瞬間にひと皮剥ける快感！

また、同じ趣味を持った仲間が集まって和気藹々わきあいあいできるのもこの地域稽古会のいいところです。自分だけで稽古しているといいのか悪いのかわからない。いつもの仲間と稽古をしているとお互いに見慣れてくる。しかし、時々合う先生方や仲間たちと稽古すると刺激になり、また、お互いに切磋琢磨できる。

受審前の皆さんは是非参加して、どこが悪いのかを先生方にどんどん指摘していただいて、考え、日々の稽古でまたそこを磨いていくのがいい稽古ではないでしょうか。是非どんどん参加して「気づき」を得てください。

私も毎回、「皆うまいなあ！一つでも追いつこう！」と刺激されて帰るのでした。

稽古とは「古いにしえを稽かんがることなり」(とググったら書いていたのであった……)

福岡県剣道連盟 居合道部 広報委員



© 公益社団法人 福岡県剣道連盟・福岡県剣道連盟 居合道部

第159号 令和元年11月発行

発行：福岡県剣道連盟居合道部

URL：<http://riai.info/>

発行人：井手友太

〒819-1132 糸島市有田36番地-1

TEL:092-322-0847

編集：有限会社 FEW